郷の集い

発行
新郷校 愛護会文芸部
編集責任者
小西　誠

# 35年度 展示会開かる（児童作品合同）

## ―一月十日より十九日まで―

## 教育長も招いて

去る一月十日より十九日まで約十日間児童の冬休み作品展と併合して、父親、母親学級を中心とした愛護会作品展を本校家庭科室において開催した。この愛護会作品展の主旨は、直接には父親母親の自己研修及び教養の向上にあり、間接にはその研修なり教養が、更に子供の教育に還元することをねらいとして、昨年より始められたのである。今年は発足して二年目。最初は母親学級を中心としたものが多く、内容的にもその色彩が強かったが誕生して満一ヶ年を迎えた今年度は、さすがに成長がみられ、質的にも向上している。とくに今年は父親学級が設けられてからは、父親の作品もめざましく母親学級を圧倒する程の進展ぶりがみられた。

作品を種目別に分類すると、ペン習字三九点、習字半紙二〇点、習字巻紙一六点、手芸一八点、わら工芸三点、他にそれぞれ二、三点追加したものもある。いずれにしても、日頃父親、母親学級できたえあげているだけにすぐれた作品が多かった。

特記すべきものとして、本校校長が収集された競書コンクールに入賞者の書いた習字を一年～中学三年まで学年別に展示したことは、更に色を添えて見ばえがあった。観覧者にとってその入賞者の腕前に驚嘆、讃嘆にしばらく関心を向けさせられたことである。他に、脇谷教諭の書道巻紙二点、広部教諭の絵画モダンアート一点がある。

〈展示会出品にあたって〉

### 二十年ぶりの書初

小西　誠

改まって〝書初〟というものを書いたのは二十年ぶり、もっと経っているかも知れない。愛護会の文芸委員会の委員長というものは因果なものである。お陰様で「がでんし」という習字の紙があることをおぼえた。久し振り[illegible]の手本を引き出して、書道芸術の何たるかについても若干なりと勉強することが出来たことは収獲であった。子供の硯や筆を借りて、空海のきんという「風信雲書自天翔臨」という書に魅せられて筆をとってみたものの、流れるような草書体は、気力をこめれば格好がとれず、格好に気を引かれれば、気力の抜けた作品が出来てしまって五、六枚書いたけれど二日の日は「吾其の書に非ず」と止めてしまった。そのうちにメ切の一月十日は、またたく間にやってきた。〝万事休す〟空海上人の書の気持になって再び筆をとってみた。然しやっぱり「蛙の子は蛙」で、どうみても「物」になっていない。しばし思案にくれたが、曲りなりにも精一杯に書いたものを展示するということによって、更に上達しようという気持になれば幸いと思い出品することにした。肩身のせまい思いで始めて校下の方々や、小・中学校の参考展示作品を見せてもらい、書というもののむつかしさというか、芸術の極地の厳しさに感嘆した次第である。

### 学芸会について

昭和三十五年度―　山田　安三郎

立案にあたって、

1 一年間、学習してきた事の発表
2 将来いつまでも心に残る想い出となるようなもの
3 校下の経済的な気分も考えて計画し期待に反しないもの
4 なるべく紛糾しない　児童の自主的な計画、実行が望ましい

でありたい。

演目決定については特に児童の発達段階からみた学年差を考える

児童の出演については、父兄に絶対にタッチさせない。

当日の児童出演の諸注意は、職員以外はしない。母親学級の出演には、全職員が助言をあたえる立場で出来るだけ自主的に運営させる

××× ※ ××× ※ ×××

### 展示会

新田ゆり子

我が校の新春をかざる生徒PTA一般参加の展示会が家庭科室にて行われた。生徒達の図画、習字、その他の作品が、金、銀、銅賞と輝いており、学校の指示を忠実に守った（守らなかった人のナント多くいたことよ）父親、母親生の作品にはその隠れた才能、余技に驚き且つ感心させられた。尚一般諸氏の書道に至りては、その研を競うが如くで、見事な展示会であった。私の老父も文芸委員に請われるままに筆を執った。お世辞ながらも皆様のお賞讃のお言葉を頂き、嬉しく思いながら、喜寿を迎えた老父の、余生の安らかな事を祈った。ともあれ、出来不出来は別として、子等と共に話し合い、一字なりとも清書した後の、すがすがしい気持は新年と共に心新たまる気がして良いものである。然し、展示会参観においては、母親学級と父親学級の一部の方たちでおわったことは、かえすがえすも残念であった。

〈評論〉

### のぞましい家庭学習のさせ方

小林　忠義

1. 子どもの力に応じて学習を身につけるには

学校からもってかえったテキストの答案を大切にとっておいて、そのうちでできなかった問題について忘れずに次の学習をさせる

(一)できなかった問題を、その答案の裏にうつさせる。
(二)そのうつした問題を今一度間違わぬようにさせる。
(三)それを学校へ持っていかせて先生にみてもらう。
(四)先生から見たしるしをしてもらう。
(五)月末の土曜日か日曜日に、その月のできなかった問題を今一度ノートにでもうつさせてみる。

ぜひ、この点を家庭で補うようにしたいものである。問題をうつさせるというのは、そのできなかった問題を頭に入れさせるという効果をねらったもので、そのポイントを心得てやるようにしたいものである。家庭学習したものを親が見て、更に先生に見てもらうことは、再確認してもらうことは、これからの学習を手固くすすめていく上に大切なことである。これによって家庭学習は常に学校学習と連絡をもってやらなければならない。

2 学習の仕方の学習や生活学習をさせるには

学習のしかたを正しく身につけさせるには、時たまそのやり方を子どもにいわせてみることで、もしそのやり方にここが無理なところや間違っているところがあったら子どもと話し合ってみることが大切である。これは小学四年生までの子どもには、とくに大切なことであるから、小さい子どもほど、この家庭学習に力を入れる必要があると思う。

いま一つ、生活学習のさせ方は、学校で教わったことをなるべく家庭の暮しの中に生かせることである。「これ学校で習ったのよ……」といって、毎日のくらしに結びつくことがでてくるようにしむけるのである。時どき、「これ学校で習ったでしょう」と親の方から聞いてみることも一つの方法であろう。

これからの学習には、こうした学校で学習したことを家庭のくらしに結ぶことがますます大切なことで、この点学校と連絡をとって十分に力を入れることが肝要である。つぎに生活そのもので新しい経験を学びとらせることである。その一つの方法として家庭でそれぞれの子どもにきまった仕事を与えておいて、それを毎日させ、できれば年の頃にその仕事を変えていくようにすることである。そして、その仕事を中心にして「日記」にその仕事のぶつかった印象的な経験を書かせるのも、一つの方法として考えられることである。

### 今学期（第三学期）における愛護会の行事

一月十六日　第十回母親学級
　　十八日　全体委員会
二月　十日　学習発表会・母親学級参加、
二月　中旬　第十一回母親学級
二月　下旬　父親学級
三月　中旬　母親学級修了式

## 冬休みの反省 ―補導委員会―

何十年来という大雪に見舞われ、校長先生も生まれてはじめてという[illegible][illegible]中止の[illegible]まで出た今年の冬休み。子供たちは[illegible]ほとんど家の中ですごし、かくれ休みを[illegible]が出る。“畑で遊んだ日”というお小言もきかず、休み[illegible]べてぐんと多量。ここでも今年の珍風景をみせていた今年の冬休み。

◇　◇

## 冬休み子供会の活動に寄せて

補導委員長　吉江照夫

今冬休み期間中は今までにない大雪に見舞われ、児童たちが待っていた冬休みも戸外へ一歩も出れず、さびしい思いのした休みでした。でも其の中で父兄の皆さんが学習補導をして下され、何の事故もなく無事に冬休みを過されたことを皆々様と共に喜ぶ次第です。私も吹雪のため各部落へ出ていくことも出来ず、申訳けありませんが、各部落の補導委員の方からの話によりますと、大吹雪の中で立派な子供会の活動をしていたことをききます。二・三お知らせします。三日に河間子供会が研修所前の雪かきをして、午后は会館で冬休み中の反省、今後の学習についての子供会を開き話し合いをしていた。又屋根の雪おろしの手伝いをしていた子供もいた。角屋では、吹雪のため誰一人外へ出られない時、五六年の女の子が区長宅へ行き、公民館の鍵をかりて戸側のすきま〳〵に紙をはさみ吹雪こみを止めたそうです。そのため、何十畳の広いたたみもぬれず、[illegible]民もその日から会館を使用することが出来たそうです。非常に立派な行為だと思います。其の外各部落においても、子供たちがいろんな活動をたくさんしたそうです。今年は雪とたたかう冬休みで、正月だというのに映画は見れず小遣いは使えず、さびしかっただろうと思いますが、又思い出にもなりましょう。旧正月が間近かになり、学習、お小遣いなど児童会できめられたように父兄の皆さんが気をつけて校外補導をして下さるよう、今後もおねがいいたします。

## 新郷のよい子達

やぶにらみ子

補導委員長の文の中にもあるが過日行なわれた全体委員会で冬休み中に良い行ないをした子供があることがわかり大人達が心の底からうなった。

①角屋の女の子・日頃から子供会など率先してひらき、先生幻燈かして下さいと、五・六年の子がいつもくる。なかなかやるわいと思っていたら、大人顔負けの美挙。心からほめてあげます。

(2)河間の子供会・さすが児童会長のおひざもと。熱心な雪かきは感心です。

(3)その他、名前はさだかでないが、青年団主催の演芸会の後始末をした感心な子もあった。

## 県外出張報告

### 第四回国語教育研究大会に出席して

広部圭一

### “若きエネルギーの吐露に魅せられる。”

“大阪でとても立派な研究会があるんにゃが行かんか”と校長先生から紹介された。案内を見ると“詩教材の取扱い方と児童詩の見方”と題する念願していた特別講演もあるそうな。心動いて十一月二十日出発。[illegible]時十三分金津発の列車に乗り込み、やみ米と共に大阪に運ばれて、新婚半年上りのホヤ〃〃の友人宅に陣取る。翌二十二日から天王寺小学校で研究会開催。冒頭の挨拶に立った吉田先生というのは三十代の若い人。はげ頭の校長先生級を想像していただけにまごつく。そういえば、この四国・九州・関東方面から数千人、大講堂に入りきれず別室にもあふれる大会員を呑んだ研究会を運営しているのが、すべて三十代の若い人達であった。“我々の仲間”とよく話の途中に出てきたが、こういった仲間づくりと、若いエネルギーの中で育った人達の偉さを思い。“ようし、帰ったら二・三人の集りでもよい研究グループを作って何か仕事をしようと決心した。

### “国語の勉強は本を読むことと本をつくることです。”

“もうすぐ昼食だなあ”と思っているとき、「野名竜二」と紹介され壇上に上がったカマキリみたいな背の高い若い先生が、「僕は今年三年生のはじめての子供をうけもって、国語の勉強は本を読むことと本を作ることだ」と教えたんです。“本を読むことは、教科書をよむだけでなくいろんな本をかたっぱしから読むこと、本を作ることとは、お前達の手で自分の文集を作ることだ”と話したんです。それから三日間他の授業はせず、お話の本を朝から夕までぶっ通しに読んでやりました。「作文は見てやれないといわずに一週間に一回はかかせなければいけない。どうしても直してやるひまがなかったら、直さなくてもいいから書かせなければいけない」。この先生はユーモアをまぜ話しつづけたが、国語教育における読むこと、書くことの重要さを説く核心にふれた発表であった。今井誉次郎先生も、“話すことは読むことと書くことの中から育つ”と、矢張り読み書きの重要さを図示して強調していた。

### “詩教材の取扱い方”

今井・無着成恭先生の授業も特に印象に残ったが、目的の。詩教材の取扱い方は要約すると次のようになる。

①の無理にわからせてはいけない。

②子供の自由なイメージの中でえがかき。

③その場合教師の朗読が子供の理解を助ける大きな力となる場合が多い。

生れて始めての大阪見物、迷子になりそうやらアテラレルやら、[illegible]23日夕刻に帰った。

## 父兄の声

### 子供のしつけ方

坪田清次郎

子供のしつけ方や教育の方法について一般の考えは、教育は家庭から始まるという平凡なことばで表わされています。子供は感化力が強く、したがって食事や寝起きを共にする両親からの影響をもっとも強くうけることだと考えます。

二週間程前の新聞で英国の話がのっていました。「子供が十才くらいになると親は子供の保護者であると同時に、よい友達でもあります。例えば家に訪問客などあった場合に、子供を邪魔者扱いにせず、時によっては大人たちの話題の中へ入れて共に楽しい一時をすごす。」という話がのっていました。

両親のことば使いの良し悪しは子供にそのまま引継がれてしまうでしょう。

良いことばを使うためには、家庭にある時も子供と共に外出した時も、ごく自然のうちに子供の心に将来立派な社会人として成長するためのしつけが第一ではないかと思います。

これらは上品なことばという意味ではなく、だれに聞かれてもはずかしくない普通のことばです。言葉使いが良いと行儀作法も良くなるというのが子供のしつけ方の根本になってくるのではないかと思い私共も子供が学習発表会に教えて頂いたことばを一日も長くつづけて行くように、気をつけたいものだと思います。

（角屋区）

## 作句

去年今年を眉を通して除夜の鐘　照香
初便り兄の字画の固くして
花吹雪子は走りゆく雪の中
そばにある椿か伏げや石地蔵　千代江
たて髪に粉雪かぶり日暮山
雪降りし雷鳴近し子等静か
赤き手で老僧払う松の雪　ゆり子
炭ついで子の帰りまつ吹雪かな
雪にあけ吹雪にくれる元旦かな
この町の古き屋並や雪しぐれ　圭一

## 子供の教育感想

篠崎テル子

子供の教育について、オ一に私は学習に興味をつけることが大切だと思います。親が子供にやかましく「勉強しろ」といっても子供の成績は伸びません。もし算数が間違っていたら、けっして叱らず、あせらずにそのやり方についてわかりやすく教えてやることが大切です。子供はそのやり方さえわかれば、面白味をおぼえて勉強するようになります。

私達は子供に点数が悪かったり連絡簿がよくないと子供に対して、お前のような者はろくな者にならん、といって、心を冷たくし、淋しいいやな思いをさせます。そうじゃなく、それよりも愛情にみちたはげましが大切だと思います。

（宮前区）

## 廃品回収ありがとう

―企画委員会から―

皆様のお骨折りで集めて頂いたボロ、古雑誌などで児童たちのよろこぶ図書を購入いたしました。

| | | |
|---|---|---|
| ○ボロ | 九四貫 | 三、一〇〇円 |
| ○雑誌 | 一六〇貫 | 二、四〇〇円 |
| ○鉄・びん | | 一、二〇〇円 |
| ○銅線 | | 一、〇〇〇円 |
| | 計 | 五、八〇〇円 |

本当にありがとうございました。

25
250
250
0
5
6250